

令和 8 年 9 月 2 日

熊取町議会

議長 文野 慎治 様

熊取町長 藤原 敏司

第 132 回 大阪府原子炉問題審議会の概要について

令和 8 年 8 月 7 日（金）に開催された第 132 回大阪府原子炉問題審議会の概要について報告します。

1. 開催日時 令和 8 年 8 月 7 日（金） 午後 2 時 30 分

2. 開催場所 大阪府庁本館 5 階議会特別会議室（大）

3. 熊取町出席者（敬称略）

文野 慎治 熊取町議会議長

河合 弘樹 熊取町原子力問題調査特別委員会委員長

松藤 忠直 熊取町原子力問題対策協議会委員長

藤原 敏司 熊取町長

4. 議題

(1) 京都大学研究用原子炉（KUR）廃止措置計画の概要について

昭和 39 年の初臨界以降、基礎から応用に至る幅広い分野で研究成果を生み出し、多くの研究者や技術者を育成してきた京都大学研究用原子炉（KUR）が令和 8 年 4 月 23 日を最後に約 62 年間に亘る運転が終了した旨の報告があり、それにとまなう KUR の廃止措置計画の概要について、配布資料に基づき本審議会での審議理由、廃止措置の対象施設、基本方針、工程、解体撤去のイメージ及び対象施設・設備、解体撤去物の種類と量、廃止措置計画申請の概要についての説明が順次行われ、了承されました。

(2) 京都大学複合原子力科学研究所の安全性等について

1. 原子炉施設の状況等について

①京都大学研究用原子炉（KUR）及び京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）の利用等について

令和 7 年度の KUR、KUCA 及び他の放射線施設等の利用については、全国 140 の大学、研究機関等から延べ 3,698 人・日の研究者・学生が来所し、共同利用等に係る実験・研究が行われたこと、また、令和 8 年度の KUR 利用運転は令和 8 年 4 月 23 日で終了したが、令和 9 年度から KUR の代替中性子源として既存のサイクロトロン加速器を共同利用に供するよう、実験室整備等のハード面及び運用ルール等のソフト面での準備を進めていること、KUCA の利用運転については低濃縮燃料での運転切り替えのため、令和 3 年 7 月末から運転を休止している旨の報告がありました。

②KUCA 燃料の低濃縮化の状況等について

平成 28 年の核セキュリティ・サミットにて日米合意された KUCA の低濃縮化については、高濃縮ウラン燃料の引渡しは、日米の関係機関の協力のもと令和 4 年度中に無事完了し、低濃縮ウラン燃料への転換については、令和 6 年度に 1 回目、令和 7 年度に 2 回目と 3 回目の燃料

が搬入され、令和8年度中に運転を開始できるよう、運転に必要な許認可手続き等を進めていること、低濃縮化後も引き続き原子炉物理等の基礎研究や国内外の学生を対象とした実験教育・人材育成を一層推進していく旨の報告がありました。

2. トレーサ棟における実験中の引火事象について

令和7年10月29日13時25分頃、トレーサ棟内の実験室（放射線管理区域）内で、共同利用にて来所していた所外の学生が実験をしていたところ、実験フード（局所排気装置）内でアルコールの入った試薬瓶が手に触れ蓋が外れて転がり、飛び散ったアルコールに近くで使用していたガスバーナーの火が引火し、実験機器のホースが焦げたもので、すぐに火は消え、周辺の装置や設備への延焼は無く、火災報知器の発報もありませんでした。本事象は消防署による現場確認で火災ではなく非火災と判断された旨の報告がありました。

なお、実験では放射性物質は使用しておらず、放射性物質の漏洩や被ばくは無く、けが人の発生もなかったこと、事象発生後に、火気を使用する実験室に“アルコール等の可燃物を置かない”といった注意喚起の張り紙をするとともに、所員及び学生並びに共同利用者に対してメールや文書による周知や年度初めの教育を行うことで実験時の火気使用に際しての注意事項を再度徹底し、再発防止に努めている旨の報告がありました。

(3) 京都大学複合原子力科学研究所定例報告について

令和7年6月から令和8年5月までの原子炉の運転状況、令和8年度共同利用研究及び研究会の採択状況、令和7年4月から令和8年3月までの環境放射能測定結果についての報告がありました。

環境放射能測定報告では、原子炉施設に起因するものと考えられる人工放射能は検出されず、周辺環境における放射能及び放射線は自然のレベルであり、住民の健康に影響を与える結果は見られないとの報告がありました。

(4) その他

市来 隼委員から、原子炉問題審議会の名称について、これまでの安全性を最優先とした役割を守りながら、これからの時代にふさわしいもの、例えば原子力研究安全審議会等とするような変更について、今後この審議会で検討してはどうかとする提案があり、事務局から今後検討する旨の回答がありました。